



令和5年度第2回 和光市食育推進コンソーシアム会議

令和6年3月19日(火)
13時30分から
和光市健康増進センター
2階多目的室

Ⅰ 第三次和光市食育推進計画中間見直し報告

食育推進基本計画(国)の動向

第4次食育推進計画の基本的な方針(重点事項)

- ①生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進(国民の健康の視点)
- ②持続可能な食を支える食育の推進(社会・環境・文化の視点)
- ③「新たな日常」やデジタル化に対応した食育の推進(横断的な視点)

これらをSDGsの考え方を踏まえ、相互に連携する視点を持ちながら総合的に推進
※食育の推進は我が国の「SDGsアクションプラン2021」(令和2年12月持続可能な開発目標(SDGs)推進本部決定)の中に位置付けられており、SDGsの達成に寄与するものとなっています。

県の動向

埼玉県食育推進計画(第五次)基本方針

- ①生涯を通じた健康を支える～食育が健康づくりの第1歩～
- ②持続可能な食を支える～食育で育む食と未来～
- ③正しい知識を養う～食育を通じた知識の習得～

絆調査結果

1) 目的：「第二次健康わこう21計画・第三次和光市食育推進計画」における中間評価にあたり、市民の健康や暮らしの状況を把握する。

2) 調査期間：令和5年6月21日(水)～令和5年8月10日(木)

3) 調査対象者

	調査対象
一般調査（65歳未満）	令和5年5月15日現在で和光市に住民票がある方を対象に、20～64歳で無作為に選ばれた方と過去に絆調査にご回答いただいた方。
一般調査（65歳以上）	令和5年5月15日現在で和光市に住民票がある方全員。ただし、施設や病院に住所がある方、要介護認定（要介護3以上）を受けている方を除く。

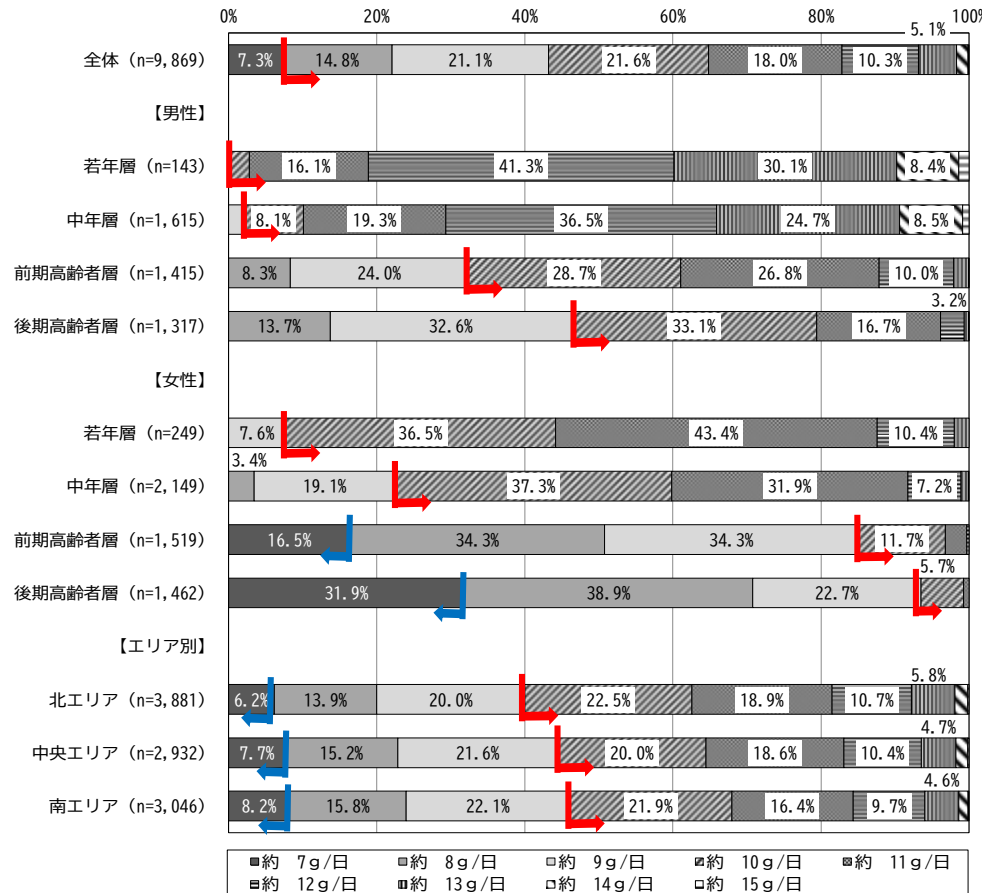
4) 配布数及び回収数

	配布数	回収数	回収率	有効回収数	有効回収率
一般調査（65歳未満）	12,807件	4,357件	34.1%	4,362件	34.1%
一般調査（65歳以上）	13,968件	7,129件	51.1%	7,132件	51.1%
一般調査計	26,775件	11,502件	43.0%	11,494件	42.9%

絆調査結果より

食塩摂取量について

赤い線から右は10g以上
青い線から左は基準値以下



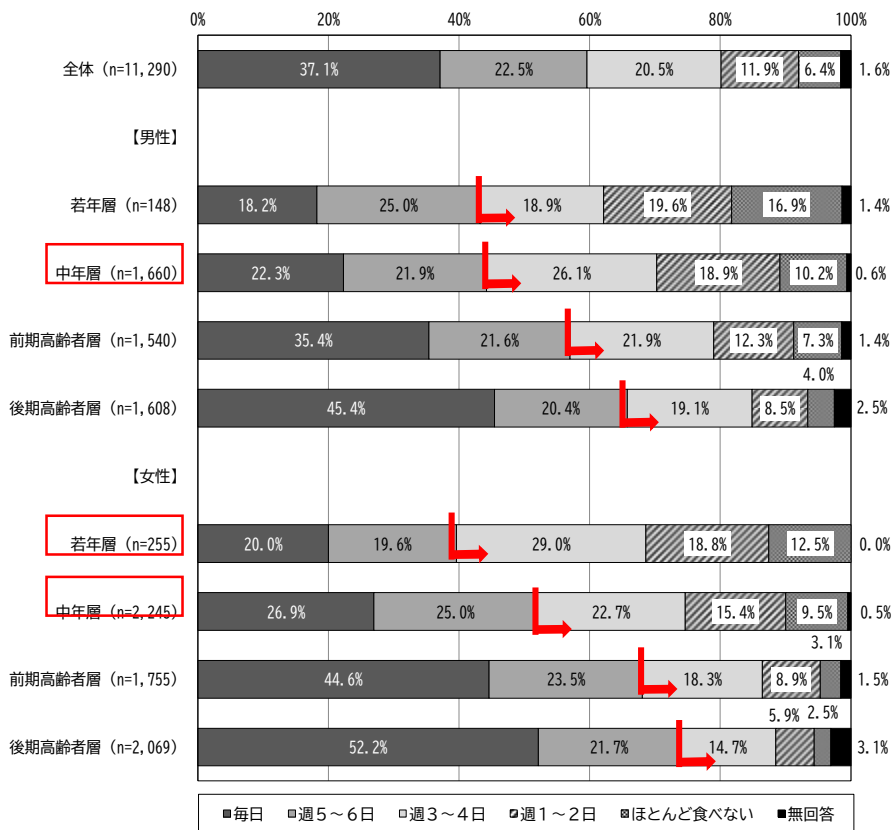
日本人の食事摂取基準（2020年版）では、男性7.5g、女性6.5gが目標値となっているのに対し、全体では9割以上が基準を超えています。

12gを超えている層は、若年層の男性では約8割、中年層の男性では約7割と多くが基準を超えています。

絆調査結果より

バランスの良い食生活について

問 主食(ごはん・麺など)・主菜(主なおかず)・副菜(小鉢等のおかず)を組み合わせた食事を1日2回以上食べる日数は週にどれくらいですか。



主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上食べる日数は、「毎日」という回答が最も多く、「週5~6日」と合わせると約6割の人が週5日以上食べるとしています。

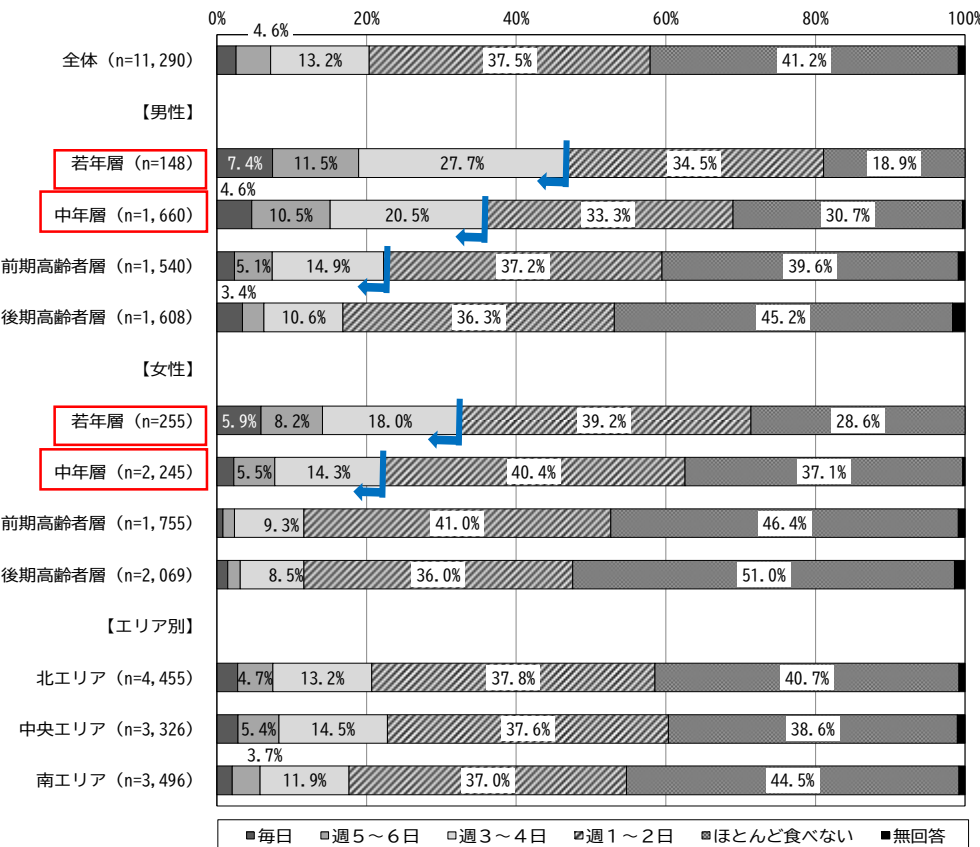
年齢が上がるに従い週5日以上という回答が多くなっており、男女別では、男性よりも女性の方がやや多くなっています。

若年層・中年層では男女ともに「毎日」という回答が少なくなっています。

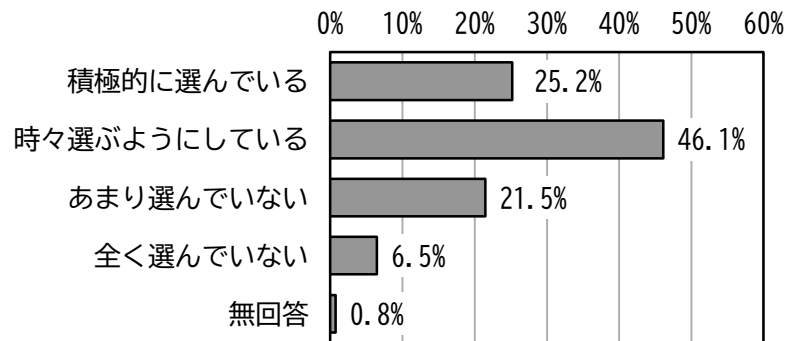
絆調査結果より

中食の利用について

問 普段、デリバリー等の宅配やコンビニ・スーパー等で売っているお惣菜や弁当を買って食べますか。

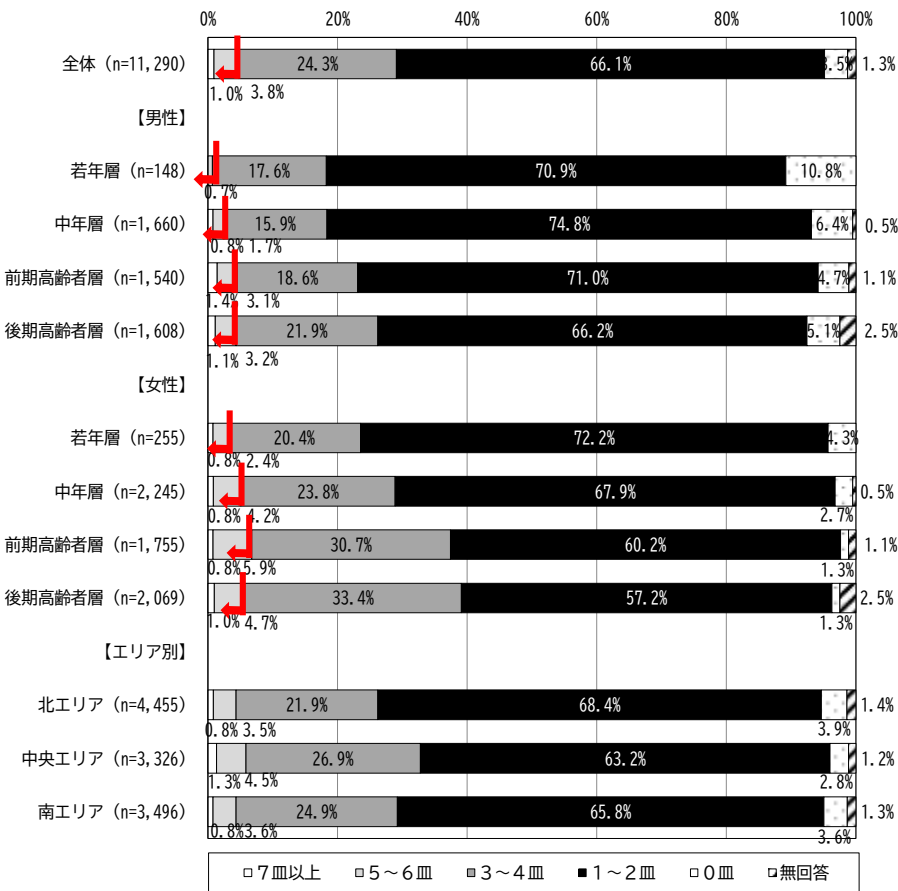


週の半分以上買う市民は全体の約60%でした。主に、若年層・中年層の利用が多くなっています。また、これらの商品を選ぶ際に、健康を意識した商品積極的に選ぶ市民は全体の25%程度(若年層は若干低め)、時々選ぶ市民は50%ほどとなっています。

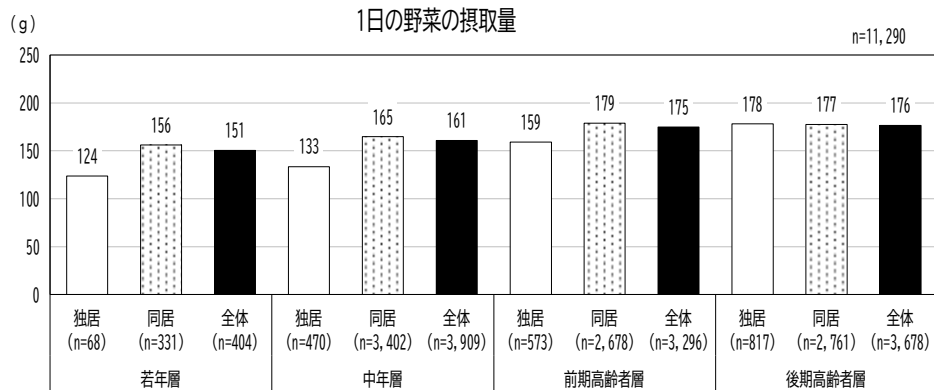


絆調査結果より

問 普段、野菜料理を1日に何皿(1皿は80gで小鉢1個程度)食べますか。



赤い線から左は350g以上摂取

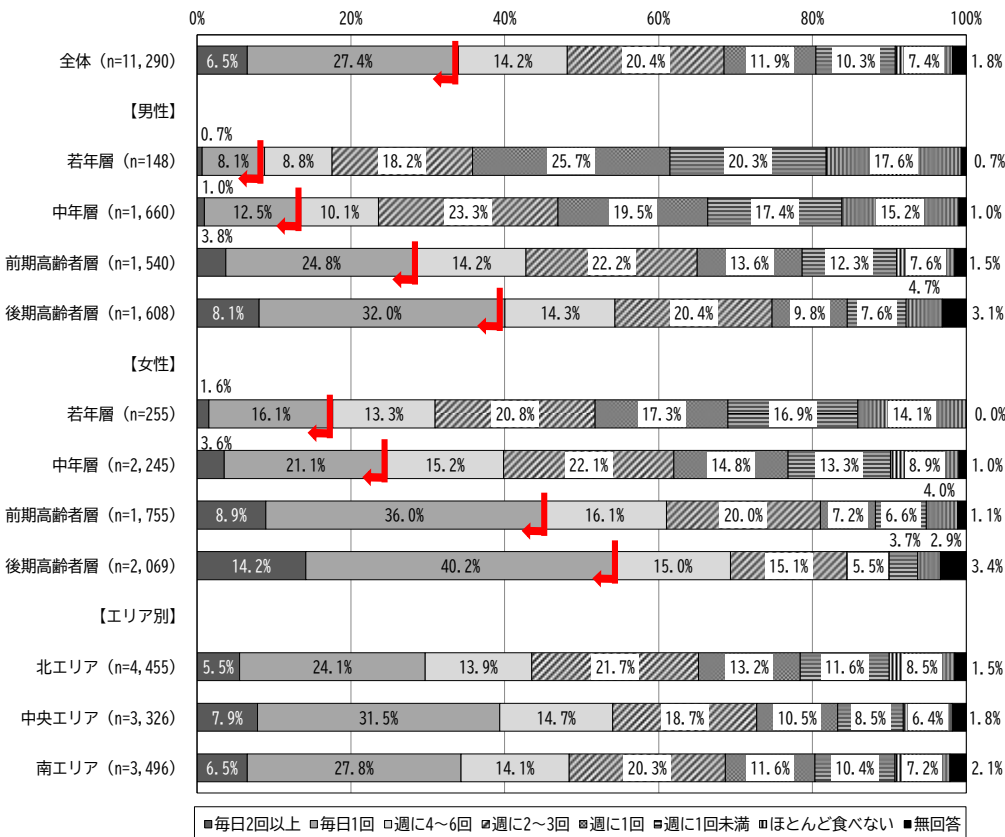


厚生労働省が推奨している1日350g以上(5皿以上)食べている人は全体の5%となっています。
各世代の平均野菜摂取量を見ると、国の推奨量の半分程度の結果となっています。

絆調査結果より

問 果物(生鮮・缶づめ。トマトは含まない)をどれくらいの頻度で食べていますか。(最近1週間ぐらいの食事について)

赤い線から左は毎日食べる層



果物の摂取頻度は、男女ともに年齢が上がるにつれて多くなっています。

後期高齢者層では「毎日1回以上」男女とも4割以上となっています。

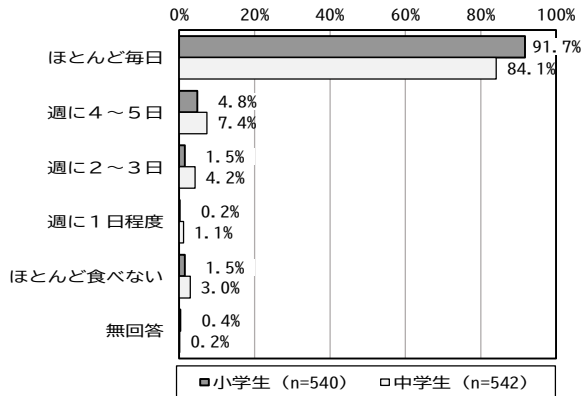
若年層では「毎日1回以上」は、男性で1割以下、女性で2割以下となっています。

食育アンケート(小学5年生・中学2年生)(素案P.93)

- 1) 目的 : 学齢期の食生活に関する実態を把握し、課題を明らかにするとともに、今後の食育推進の基礎資料とするためアンケート調査を実施
- 2) 調査期間 : 令和5年6月1日(木)～令和5年8月31日(木)
- 3) 調査方法 : 児童・生徒に貸与しているタブレットを利用したWeb回答方式
(GoogleForms利用)
- 4) 調査対象者 : 和光市内の小学校・中学校に通う児童・生徒
(小学生699人・中学生647人)
- 5) 回収数 : 小学校540人・中学校542人

食育アンケート(小学5年生・中学2年生)結果より

問 いつも朝食を食べていますか。(お茶や水を除く)



小学生「ほとんど毎日」	91.7%
「週に4~5日」	4.8%
「週に2~3日」	1.5%
「週に1日程度」	0.2%
「ほとんど食べない」	1.5%
中学生「ほとんど毎日」	84.1%
「週に4~5日」	7.4%
「週に2~3日」	4.2%
「週に1日程度」	1.1%
「ほとんど食べない」	3.0%

項目	小学生		中学生	
	度数	構成比	度数	構成比
食べる時間がないから	21	48.8%	44	51.8%
家族が作ってくれないから	2	4.7%	5	5.9%
寝ていたいから	10	23.3%	34	40.0%
おなかが空いていないから	20	46.5%	45	52.9%
太りたくないから	3	7.0%	5	5.9%
食べないほうが調子がいいから	6	14.0%	18	21.2%
おかしなどの食事ではないものを食べてしまうから	0	0.0%	5	5.9%
その他	5	11.6%	8	9.4%
無回答	0	0.0%	0	0.0%
回答者数	43		85	
非該当	497		457	
回答計	67		164	

【その他の理由】

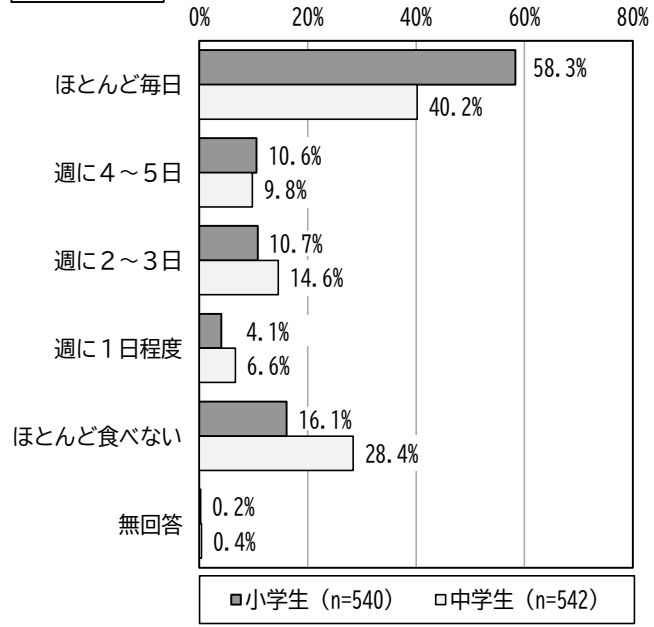
小学生：朝、そんなにおなかがすいていないからお腹がすいている感覚があまりないから
土曜日と日曜日はほとんど食べない
用意するのがめんどくさい
(この児は朝も夜も同じ理由でほぼ食べない)

中学生：買ってきてくれなかったから
食欲がない
めんどくさい
ゲームがしたい
おなかが空いていないから

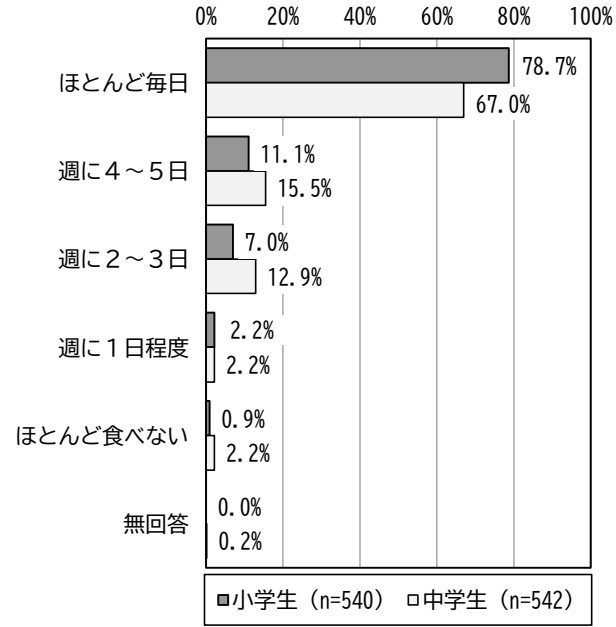
食育アンケート(小学5年生・中学2年生)結果より

問 朝食を家族と一緒に食べることはどのくらいありますか。
 問 夕食を家族と一緒に食べることはどのくらいありますか。

朝食



夕食



【朝食】
 小学生
 「ほとんど食べない」16.1%
 「週に2~3日」10.7%

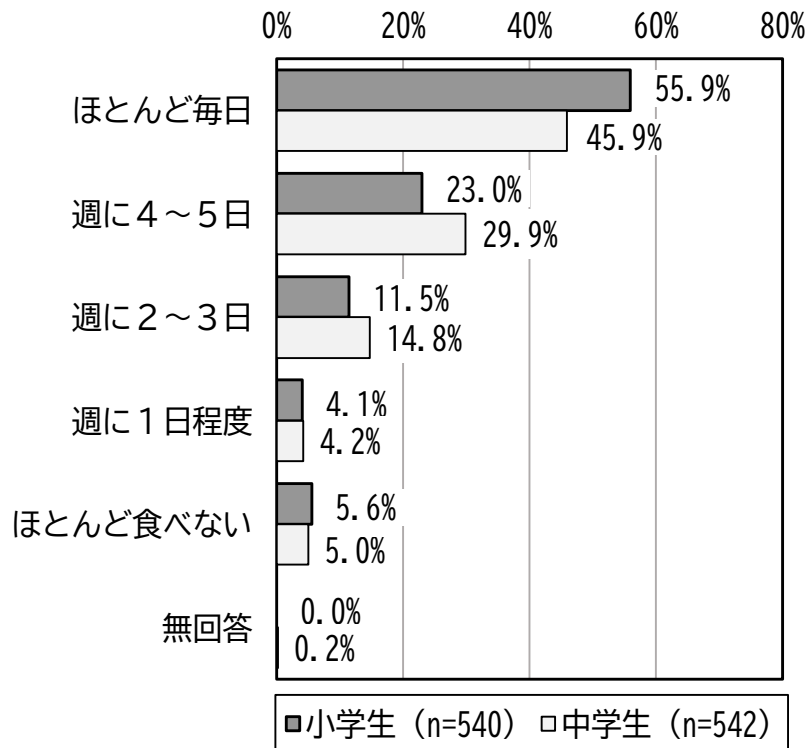
中学生
 「ほとんど食べない」28.4%
 「週に2~3日」14.6%

【夕食】
 小学生
 「ほとんど食べない」0.9%
 「週に2~3日」7.0%

中学生
 「ほとんど食べない」2.2%
 「週に2~3日」12.9%

食育アンケート(小学5年生・中学2年生)結果より

問 1日に2回以上、主食・主菜・副菜をそろえて食べる日は1週間に何回ありますか。



小学生「ほとんど毎日」 55.9%
 「週に4~5日」 23.0%
 「週に2~3日」 11.5%
 「週に1日程度」 4.2%
 「ほとんど食べない」 5.6%

中学生「ほとんど毎日」 45.9%
 「週に4~5日」 29.9%
 「週に2~3日」 14.8%
 「週に1日程度」 4.2%
 「ほとんど食べない」 5.0%

食育アンケート(小学5年生・中学2年生)結果より

問 あなたが思う「よい食生活」はどのような食生活ですか。

【小学生】

- ・1日3回きちんと食べる
- ・ごはん・肉・野菜をきちんと食べる
- ・バランスよく食べる
- ・食事のマナーを守る、肘をつかない
- ・好き嫌いをしないでなんでも食べる
- ・おいしいものが食べられる
- ・あまり外食をしない
- ・よくかんで味わって食べる、早食いをしない
- ・三角食べをする
- ・楽しく会話しながら食べる
- ・健康によいものを食べる
- ・お母さんの栄養満点の手料理
- ・座って食べる

(番外編)

- ・毎日ラーメンだけ
- ・わが祖国の古き良き文化である和食を主とした栄養のバランスがとれている食事(植物性の食品をベースとし、魚などで動物性の栄養を摂取する食事を定義とする)

【中学生】

- ・1日3回きちんと食べる
- ・主食・主菜・副菜をそろえてきちんと食べる
- ・栄養のバランスがとれていること
- ・赤・黄・緑が揃っている食事
- ・お腹いっぱい食べる
- ・好きなときに好きなものを食べる
- ・健康的なものを食べる
- ・毎日ごはんが食べられる
- ・決まった時間に食事をする
- ・友達と一緒に食べる
- ・家族と笑って食べる
- ・好き嫌いをしない
- ・五大栄養素をしっかりととる

食育アンケート(小学5年生・中学2年生)結果より

問「食」について困っていることはありますか(自由記述)

【小学生】

- ・好き嫌いがある
- ・給食が多い
- ・小食
- ・食べるのが遅い
- ・お母さんの料理がいつもおいしいこと
- ・怒られながら食べていると美味しくない
- ・朝ごはんは自分でつくらなければいけないので大変です

【中学生】

- ・好き嫌いがある
- ・給食が多い
- ・痩せたいけど食べてしまう
- ・食べるのが遅い
- ・お腹が空かず、あまり食べられないので貧血になってしまう
- ・噛まずに食べてしまって太ってしまう
- ・家族が家の中にいるのにほとんど一緒にご飯を食べない。
一緒に食べても全く会話をしないことが多く、食事の時間を楽しむことができない。
- ・食べても意味がないと思ってしまう

2 施策と事業展開の見直し

<施策1>子どもの基本的な生活習慣の形成

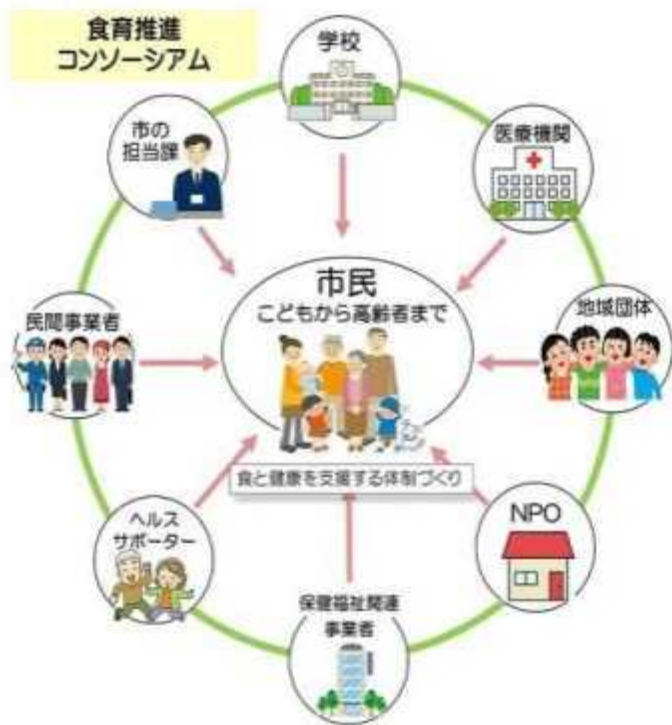
<施策2>健康寿命の延伸につながる食育の推進

<施策3>地域一体型の自然に健康になれる食環境づくり(横断的施策)
(次ページ)食育推進コンソーシアムについて

<施策4>わこ産わこ消の推進と伝統的食文化の継承

<施策5>食への関心、理解を深め、感謝の気持ちをはぐくむ

和光市食育推進コンソーシアムとは



わここの現状・課題の共有、
公民協働による食育の推進

地域包括ケアシステムの構築
(個人の健康的な食生活を支援する体制づくり)

わここの版食育の普及・市民の食生活の改善

【食育推進コンソーシアムとは】

こどもから高齢者まで、すべての市民の「食と健康」を考えた食環境づくりに向けて、和光市の健康課題や食育に関する情報を市内の様々な団体が共有し、会議の中でアイデアを出し合いながら具体的な取組を検討していきます。

企業・事業者・地域団体・ボランティア等、様々な関係者が主体的かつ多様にコラボしながら公民協働を実現していくことで、地域包括ケアシステムを活用し、より実効性の高い食育の展開を目指していくものです。

施策と事業展開の見直し

●は新規事業・○は一部変更

新規事業と一部変更した事業

基本方針	施策	事業展開
観点を取り入れた食育推進 (ライフコースアプローチ)の 生涯を支える健康づくり	子どもの基本的な 生活習慣の形成	①乳幼児期 (0～6歳) <ul style="list-style-type: none"> 成長・発達に応じた離乳食・幼児食の支援 保育園等における食育推進事業 わこう版ネウボラによる個別栄養支援
		②学齢期 (7～18歳) <ul style="list-style-type: none"> ●「早寝早起き朝ごはん」の普及啓発 学校等における食育の推進 ○食に課題のある世帯への支援事業
	健康寿命の延伸に つながる 食育の推進	③青年期 (19～39歳) <ul style="list-style-type: none"> ●食育推進コンソーシアムを活用した健康無関心層への啓発
		④壮年期 (40～64歳) <ul style="list-style-type: none"> ○食育推進コンソーシアムによる減塩・減糖・減脂 ちよこっとプラス(果物・野菜)プログラム
		⑤高齢期 (65歳以上) <ul style="list-style-type: none"> 生活実態調査等に基づく個別栄養マネジメント ●生涯にわたり自分の身体や歯・口腔の健康を保ち、食生活を楽しむための食育の推進【新】
		⑥全ライフステージ <ul style="list-style-type: none"> ●健全な食生活に関する知識の普及・啓発 ●一般栄養相談による個別支援
地域一体型の公民協働に よるセルフヘルスケア マネジメント支援	地域一体型の自然に 健康になれる食環境 づくり (横断的施策)	○食育推進コンソーシアムによる地域食育イベントの実施
		○食育推進コンソーシアムによる減塩・減糖・減脂・ちよこっとプラス(果物・野菜)プログラムの提供(再掲) ●食育推進コンソーシアムを活用した健康無関心層への啓発(再掲) ●健康に配慮した商品やメニューの設置や地産地消等を実施している店舗(わこう食育推進店)の登録拡大
正しい知識の習得とこ 未来につながる食育	わこ産わこ消の推進と 伝統的食文化の継承	地域における食育の推進・普及 ●地場産野菜や果物の紹介・レシピ配布 ○出前講座、収穫体験等体験型食育イベントの実施
		食への関心、理解を深め、 感謝の気持ちをはぐくむ <ul style="list-style-type: none"> ●「だれか」と一緒に食べる「共食」の推進 ●食品ロス削減の啓発 ●災害時における家庭での備蓄の啓発

- 「早寝早起き朝ごはん」の普及啓発
- 食に課題のある世帯への支援事業
- 食育推進コンソーシアムを活用した健康無関心層への啓発
- 食育推進コンソーシアムによる減塩・減糖・減脂・ちよこっとプラス(果物・野菜)プログラム
- 生涯にわたり自分の身体や歯・口腔の健康を保ち、食生活を楽しむための食育の推進
- 健全な食生活に関する知識の普及・啓発
- 一般栄養相談による個別支援
- 食育推進コンソーシアムによる地域食育イベントの実施
- 健康に配慮した商品やメニューの設置や地産地消等を実施している店舗(わこう食育推進店)の登録拡大
- 地場産野菜や果物の紹介・レシピ配布
- 出前講座、収穫体験等体験型食育イベントの実施
- 「だれか」と一緒に食べる「共食」の推進
- 食品ロス削減の啓発
- 災害時における家庭での備蓄の啓発

評価指標の設定

項目	現状値 (R5)	目標値 (R8)
地場産野菜（埼玉県産・和光市産）を食べる市民の割合	43.9%※1	50%以上
朝食を欠食する市民の減少	—	—
1) 朝食を欠食する子どもの割合	2.2%※2	0% (国 0%)
2) 朝食を欠食する若い世代の割合（20～39歳代）	22.3%※1	15%以下 (国 15%以下)
主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている市民の割合（健康わこう21計画と同様）	—	—
主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている子どもの割合（小・中学生）	50.9%※2	80%以上
主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている市民の割合（健康わこう21計画と同様）	59.6%※1	80%以上 (国 50%以上)
1日当たりの食塩摂取量の減少 (健康わこう21計画と同様)	男性 10.7g 女性 9.7g ※3	男性 8.0g 以下 女性 7.0g 以下 国：男性 7.5g 以下 女性 6.5g 以下 国の食育推進基本計画では 8.0g
1日当たりの野菜摂取量の平均値	133.6g ※1	200g 以上 (国：350g 以上)
果物を毎日食べている市民	33.9%※1	40%以上
食品ロス削減のために何らかの行動をしている市民の割合	84.5%※1	90%以上 (国：80%以上)
郷土料理や伝統料理を食卓に取り入れている市民の割合 (積極的に取り入れている・少し取り入れている)の増加	30.0%※1	50%以上 (国：50%以上)
ふだんから減塩等に気をつけた食生活を実践する市民の割合の増加	65.1%※1	75%以上 (国：75%以上)
食育コンソーシアム構成員および食育推進店の登録数	構成員 38 か所 推進店 14 店舗 ※4	構成員 50 か所 推進店 20 店舗
食育推進店を認知している市民の割合	25.1%※1	40%以上
食育認定マークを認知している市民の割合	27.7%※1	40%以上

【目標値設定の考え方】
 中間評価では短期目標として設定し、令和9年の次期計画策定に向け、国や県の数値に近づけられるよう段階的に達成を目指していきます。

2 今年度の食育の取組について

「減塩・減糖・減脂」ポップの掲示

イトーヨーカドー和光店・いなげや和光新倉店



毎年2回、商品入れ替えの時期に
地域活動栄養士会えぷろんの皆様
にご協力をいただき、商品の確認作業
をしていただいています。

【イトーヨーカドー様】

夏季商品 269品

冬季商品 269品

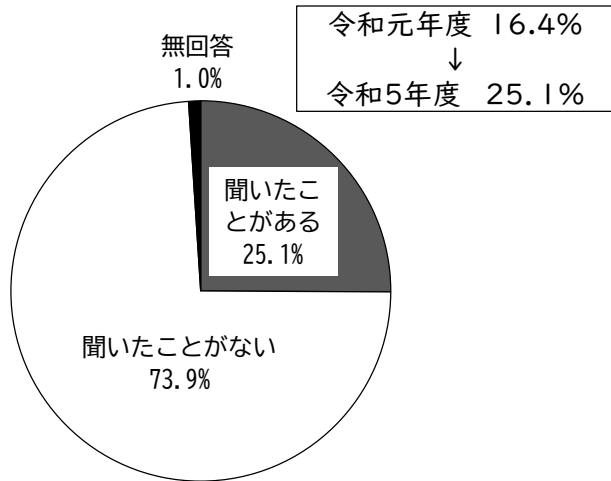
【いなげや様】

夏季商品 216品

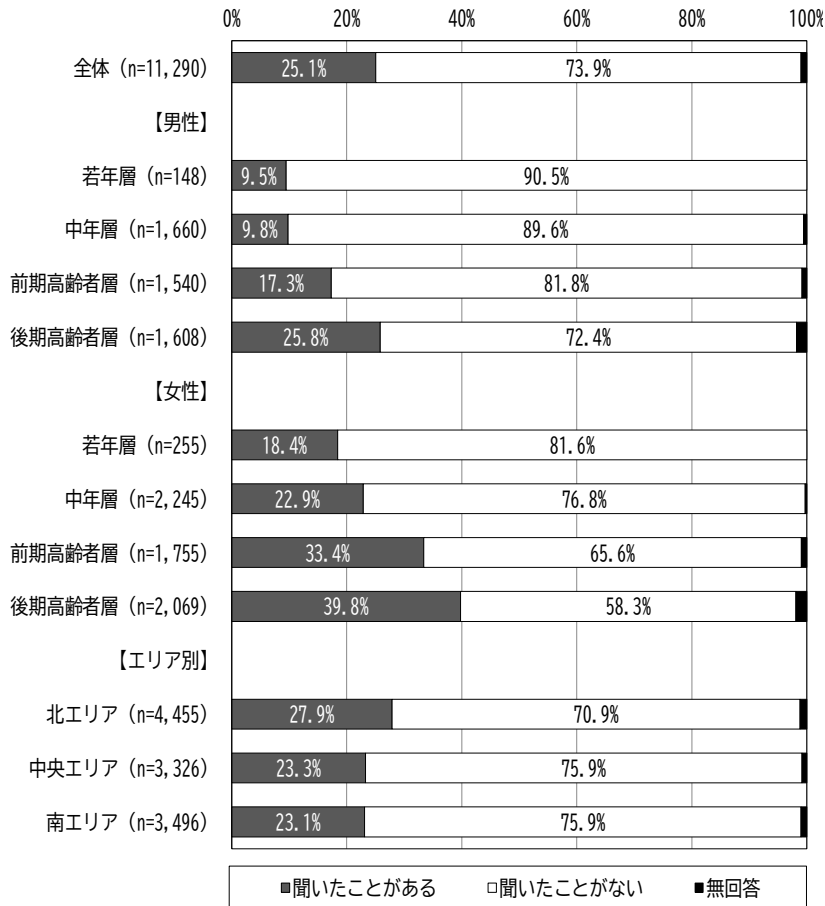
冬季商品 204品

絆調査結果より

問「わこう食育推進店」をご存じですか。

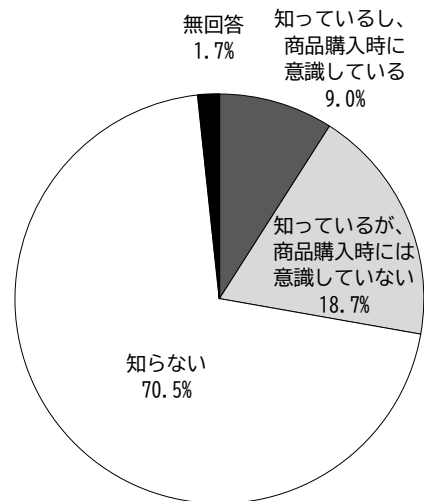


項目	度数	構成比
聞いたことがある	2,830	25.1%
聞いたことがない	8,344	73.9%
無回答	116	1.0%
回答者数	11,290	100.0%
非該当	204	
合計	11,494	



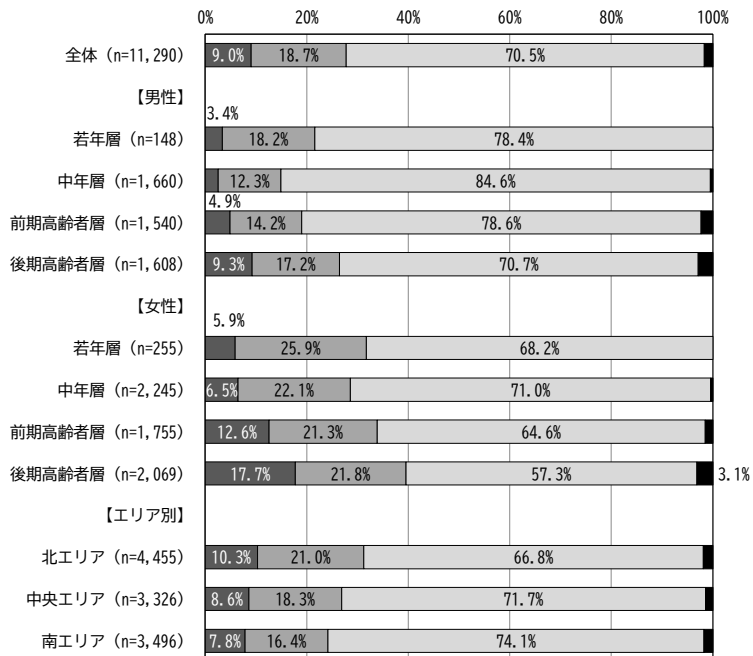
絆調査結果より

問 「わこう食育認定マーク」をご存じですか。



項目	度数	構成比
知っているし、商品購入時に意識している	1,020	9.0%
知っているが、商品購入時には意識していない	2,116	18.7%
知らない	7,963	70.5%
無回答	191	1.7%
回答者数	11,290	100.0%
非該当	204	
合計	11,494	

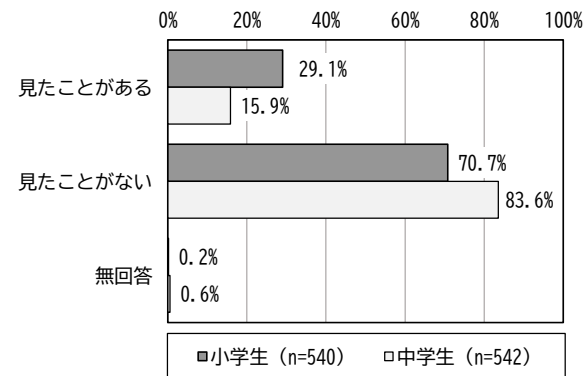
令和元年度 12.2%
↓
令和5年度 27.7% (9%+18.7%)



■知っているし、商品購入時に意識している
□知っているが、商品購入時には意識していない
□知らない
■無回答

食育アンケート(小5・中2)より

問 「わこう食育認定マーク」をご存じですか。



小学生 29.1%
中学生 15.9%

健康フェアの開催



- 北・南・中央子育て世代包括支援センター
「赤ちゃん休憩室」身長・体重計測・相談等
- 学校教育課
食育レシピの配布
- 保育センター
保育施設等の食育・子育て支援の取組の情報周知（朝食レシピHPのQR配布・保育センター通信や朝食についてのチラシの配布）

11月19日(日)

埼玉県×和光市×イトーヨーカドー和光店×セブン-イレブン 連携 彩の国フェア

▼ベジメーター体験 (食育推進店チラシや減塩レシピを配布しました)

▼彩の国フェア



▼ちびっこ職場体験
まぐろに興味深々でした！

▼SDGsコーナー



▼わこうっち健康体操



2月19日 食育の日コラボ企画



下準備

- ・チョコレートは細切またはお湯に溶かしておく。
- ・卵の卵殻に膜を剥き、またはラップでラップを巻く。
- ・Aを合計してよく混ぜる。

♡ここがポイント♪家庭でのコツ♪

食育推進店が少なめにし、代わりにアーモンドプードルを加えました。後焼時のアツアツ状態から5分ほど冷ましてドライフルーツの水分を飛ばすことで、家でも蒸気焼きもアツアツ。食育推進店のチョコレート使用料と、食育推進店のギフトメニューもおすすめです。

ナッツ！レッツ！ フルーツ濃厚ブラウニー

材料 (直径14cmの丸型 1個分)	
チョコレート	150g
無塩バター	100g
生クリーム	90g
てんぷら油	80g
卵 (卵黄のみ)	2個
アーモンドプードル	40g
強力粉	70g
ベーキングパウダー	5g
塩	ひとつまみ
アーモンド (刻み)	30g
ミックスナッツ (刻み)	50g
ドライフルーツミックス	80g

作り方

- 1 チョコレートと無塩バターを耐熱容器に入れ、600~700Wの電子レンジで1分加熱し、取り出して一度混ぜる。再度電子レンジで1分ほど加熱し材料が完全に溶けるまで加熱し、生クリームを加える。取り出したら、生クリームモードにして、1分ほど加熱を繰り返す。
- 2 卵にてんぷら油、卵を混ぜてしっかりと混ぜる。
- 3 Aを加えてしっかりと混ぜ、アーモンド (刻み) も混ぜ、さらに混ぜる。
- 4 型に流し、オックスナッツ、フルーツを上にデコレーションし、予熱したオーブンで30分~40分ほど焼く。竹串をさして、生地が付きにくくなった50%。焼きあがったら、型からはずし、冷ます。しっかりと冷ましたら切り分ける。(冷蔵で一晩冷ませると食感がよくなって、さらにおいしく仕上がります。)

山にこは安田さん
お祝いワンポイント
●お祝い品に付す。
●お祝い品に付す。
●お祝い品に付す。
●お祝い品に付す。
●お祝い品に付す。
●お祝い品に付す。
●お祝い品に付す。
●お祝い品に付す。
●お祝い品に付す。
●お祝い品に付す。



山にこは安田さん
お祝いワンポイント
●お祝い品に付す。
●お祝い品に付す。
●お祝い品に付す。
●お祝い品に付す。
●お祝い品に付す。
●お祝い品に付す。
●お祝い品に付す。
●お祝い品に付す。
●お祝い品に付す。
●お祝い品に付す。

パパピニョルの安田様にオリジナルの健康スイーツレシピを考案していただき、店舗で配布・コンソーシアムの情報発信をしていただきました。

また、イトーヨーカドー和光店様では、スイーツレシピと試食の配布、食育推進コンソーシアム、食育推進店の周知を実施していただきました。



構成員・推進店 新規参加事業者様について

【2月加入】

- **明治安田生命保険相互会社 様**
健康増進に関する取組（測定会・講座等）を行っており、
3月22日に健康増進に関する連携協定の締結予定
- **一般社団法人 YY企画 様**
介護予防講座等のコラボ予定

【3月加入】

- **地域共生推進課、子ども家庭支援課**

【4月 食育推進店 登録予定】

- **パパピニョル様**
健康に関する情報周知のお店（健康おうえんのお店）として登録

要領を変更し、市内食品取り扱い店舗に加え、市内飲食店の参加拡大を目指します。
(周知にご協力をお願いします)

食育推進店ステッカー（案）



3 来年度の食育の取組について

来年度予定

- ・食育認定マーク掲示
- ・ちょこっとプラス(果物・野菜)ポップ掲示
- ・食育推進店チラシでの市民周知
- ・減塩・減糖・減脂チラシの配布

- ・食育イベントの開催

食育イベントの開催①

埼玉農産物の魅力再発見食育推進事業費補助金の活用

【目的】食生活の改善や食文化等に関する意識の向上・地場産食材の活用割合の増加等を支援することで、食育推進基本計画(国)の目標達成(令和7年度)を目指す

※交付額は1/2以内

<推奨される事業内容>

- 1 食育を推進するリーダーの育成
- 2 農林漁業体験機会の提供
- 3 地域における共食の場の提供
- 4 学校給食における地場産物活用の促進、和食給食の普及
- 5 環境に配慮した農林水産物・食品への理解向上
- 6 食品ロスの削減
- 7 地域食文化の継承

(注)シンポジウム、展示会、交流会の開催(1~7の取組と併せた上で支援)

わこう食育おうえん隊講座(案)

【目的】

和光市健康づくり基本条例に基づき、食に関する知識の普及・啓発及び地域の伝統的食文化の継承を目的とし、食育講座を開催する。(全3回)

【対象者】 和光市の小学校に通う小学3年生～小学6年生の児童

【定員】 各回18名 計54名

【内容(予定)】 各回試食あり(参加者には会費を徴収予定)

第1回「和光市の農業について学ぼう」

第2回「和光市の食文化について学ぼう」

第3回「伝統的和食について学ぼう」

※各講座終了後には、わこの食育おうえん隊認定証を配布する。

【開催時期】 7～8月の夏季休暇中に開催

【共通目標(国)】 産地や生産者を意識して、農林水産物・食品を選ぶ国民の割合を増やす。

【市の目標】 郷土料理や伝統料理を食卓に取り入れている市民を増やす

※次回のコンソーシアム情報共有会で、令和7年度(予定)のわこう食育おうえん隊についてテーマなどを協議

食育イベントの企画案②

例)

- ・みんなのわこらぼまつり(5月25日(土))
行政ブースとして参加可能(ただし費用を徴収したり販売は不可)
- ・わぴあイベント
昨年はわぴあ夏祭り与健康フェアを共同開催しました
- ・市民まつり
行政ブース(ただし費用を徴収したり販売は不可)

食育イベントの企画案③

- ・開催する季節（夏場は食品提供はNGだが秋はOKなど）
- ・対象（乳幼児のみ、子ども向け（0～18歳）、全世代）
- ・場所
- ・規模感